

広島で被爆樹木を見る

2月下旬、全国の民医連共同組織(友の会)の全国連絡会議が広島で開かれました。その会場は市の中央部にあり、私は少し早めに着いて会場に近い平和記念公園他をめぐり、平和記念資料館などを見学しました。

その中で各所にある「被爆樹木」をいくつか見て回りました。「被爆樹木」というのは73年前広島に落とされた原爆によって焼かれたり、傷ついたりしながらも生命を蘇らせ、今なお生き続けている植物たちのことです。

草木の芽吹き・再生に励まされた人々

原爆で焼け野が原とされた広島(長崎も)では、75年間は草木も生えないだろうと言われましたが、これらの木々たちはやがて芽を出し、枝葉を茂らせて、絶望的状况に置かれた人々を励ましました。

そして、これらの木々を広島の人達は、今も大切にし、見守る活動を続けているのです。

2015年に偕成社から出版された「広島の木に会いに行く」(石田優子著)という本には、こうした広島の人々と「被爆樹木」との関わり、エピソードが生みの声で収められています。

アオギリの歌

「勇気をおつめ ちかいます」

写真上のアオギリを讃えた「アオギリの歌」は2001年「広島のうた」グランプリに輝きましたが、当時小学3年の女生徒が作詞・作曲したもので、今でもうたわれ続けています。

「勇気をおつめ ちかいます あらそいのない国 平和の灯(ひ) 広島のおねがいはただひとつ せかい中のみんなの明るい笑顔」

↑縮景園の中の大イチョウ、被爆による火傷を残しています

やっと始まったナラ枯れ対策(二上山)

二上山のナラ枯れには多くの人たちが心を痛めています。このほど「平成29年度ナラ枯れ防除対策業務」の看板が立てられ、ナラ類の枯れ木が次々と切り倒されています。

「やっと始まったか」と胸をなでおろす思いですが、今後どういう対策が進められるのでしょうか。



二上山における被害の実態・実情も正確に知りたいし、なによりもナラ類の再生・復活がどう図られるのか。実施主体の葛城市の計画を教えてもらって、私たちに何ができるのかも相談しなければなりません。

山歩きクラブの運営委員会でも「全国のどんぐりを植える取り組みに学ぼう」との論議を始めているところですから。



続・二上山に咲く花々 47

ワレモコウ(吾亦紅、吾木香) バラ科ワレモコウ属



写真は澤木仁さん

2017年10月の総選挙では、自らの信条・理念を投げ捨てて改憲派(希望の党)に身を売る政治家が続出しました。その時、私はなぜかこの花を愛おしく思い出していました。

秋色深まる中、静かだが毅然として花であることを主張しています。花期は8～10月。色も形状も「桑の実のよう」(岩田重夫氏)。円筒形の花序を枝先に着けて多くの花を咲かせますが、花卉はなく、4枚の萼片の色がこの色なのです。薬草。

人情味あふれる時代小説で江戸庶民の暮らしや哀歓を描く女流作家・宇江佐真理さんは短編「吾亦紅さみし」の中で、登場人物(年配女性)に次のように語らせています。「吾亦紅は茶道の花として広く使われています。地味な花色が茶人に好まれるからでしょう。しかし、その名の由来は野山に咲く姿が吾(自分)を主張しているように見えるところからきております。吾も亦、紅であると」と。

続・二上山に咲く花々 48

キダチコマツナギ(木立駒繫ぎ) マメ科コマツナギ属

写真・文 松尾忠

二上山でも外来植物は少なくなく、その多くは人間が持ち込んだもの。この花も中国原産とされ、林道法面(のりめん)緑化のために植えられたものでしょう。

在来種のコマツナギが30cm位なのに、この種は2m超となり、見るからに繁殖力旺盛。両者ともピンクの花は可愛らしいのですが、長く伸びる茎は「馬を繫げる」と言われる位強靱です。花期は夏から初秋。

